Eiko News Flash

発行所
栄光学園新聞部
横須賀市船越

予定
十一月二十五日　高校国語模擬試験
十二月十一日より　学期末考査

石川・松永両君 初の優勝杯を獲得
全関東・県下英弁論大会に

明治学院大学英語クラブ主催、旺文社後援による第一回全関東高校英語弁論大会は、十一月八日品川にある同大学チヤペル内に関東三十校の精鋭を集めて行われたが、本校を代表して出場した石川厳君が初の優勝杯を本校にもたらした。大会は、十二時三十分ラジオで知られている松本亨先生他外人二名を加えた五名の審査員諸氏の下に開会されたが二十一番目に登壇した　君は、最後迄予断をゆるさぬ舌戦下に"再軍備は平和への道"の演題をもって堂々制覇した。

会場は各校から遠くは前橋からの応援の学生及び同大学々生によってうめられ、審査員の方々は会場の随所に居られて審査されていた。会終了後には茶話会があった。

が、参場された校長はじめシュカート、向井先生ならびに応援の　君らの歌うパイレーツソングを最後に閉会された。そして第一位には優勝杯大小二個ならびに賞状がおくられた。大杯は各校おくりになるものであるが小杯は個人杯である。

第一位栄光学園高校　
第二位東洋英和学院（女子）
第三位八洲高等学校（女子）
第四位逗子開成高校（男子）
第五位前橋高等学校（女子）

石川君談　全くシュカート先生のおかげです。一生懸命に努力しました。

英弁論大会に優勝の（左）　君、（右）　君とシュカート先生

第一回神奈川県下中等学校英語弁論大会は、菊かおる三日、文化の日に際し鎌倉雪の下にある国立横浜大学学芸学部講堂で行なわれたが、本校から参加した中三A　利昭君は、並々他をおさえて優勝杯を獲得した。本大会は同大学英語クラブが主催し、ニッポンタイムズ社が後援するものである。

午後二時半、舌戦の火蓋は同大並びにニッポンタイムズ側からの米人一名を加えた五名の審査員を前に切っておとされた。今回の参加校は本校を合せて三十余校に達し選手は各一名の出場となっており、クラブ員からなる司会によって登壇する。

松永君は、"科学と宗教"なる演題をもって、日頃の努力を発表した。すなわちこの時にあたり他校生に於てみられぬごく自然なジェスチュアと通る声をもって論旨を巧みに表わし満場の喝采を一手にあつめ優勝候補の筆頭とみられるにいたった。当日は、シュカート先生以下数名の先生方ほか生徒の顔もみられたが、終了に近い頃迄には校長先生も来場され、優勝の発表には　君をかこんでしばし大喜びの様子であった。

大会は明倫（横浜）中を最後に五時半終了し、審査員講評の後、結果の発表に移ったが、予想通りの本校優勝に、続く二位は鎌倉附属中学、以下横須賀学院、藤沢一中、湘南白百合学園中学校と決定し、それぞれカップ並びに楯、賞状が授与された。参加選手中には女生徒も多数みられたが、三位、五位は女生徒が獲得している。

優勝した　君に感想をきくと、「優勝などは考えてもいなかったことで、シューケルト先生他皆様方のおかげだと感謝して居ります」と語った。

▼講堂に再び舌をふるう

十四日には校長先生のきもいりで公表会が開かれ、　、　両君が再び講堂に雄弁をふるった。これは特に中三、高校生全部が六校時を特別にさいたもので、校長先生の訓話があった他、スピーチにあたって英語担当の先生から各々解説がくだされた。

竹田氏迎えて 讀書研究会開く

本校の読書旬間は十一月四日から同十五日迄図書部の主催で行なわれ、種々の催しが予定されたが、その一部にあたる最初の読書研究発表会が十二日の一時から、本校講堂に横須賀図書館長の竹田氏を迎えて開かれた。

今旬間の主旨として図書部で生徒諸君の読書力の向上ならびに図書室への関心を一層高めることをあげ、研究発表会でも時に各人から書籍の紹介が行なわれた。同じく会の終了後に講話の竹田氏も読書入門への道をひらかれており、会は有意義な読書旬間にふさわしかった。又今回の研究発表では第一席に　君（ケーベル先生と共に）同二席に　君（アドミラブル・クライトン）第三席として　君の（新唐詩選）がきまり一、二位に賞品として岩波文庫が贈られた。又本校図書室をよく利用したK三の　、K二　、K一　の四君が同じく記念品を贈られた。

論説 我等の図書室

"読書の秋"も終ろうとしている今年は寒波の襲来が二週間も早くて、"燈火親しむの候"も少々短か過ぎたようだが、生来勤勉なる我が生徒諸君は、よく此の機会を利用して、"読書に親しんだ事と思う。加うるに、今年は図書部が読書旬間を記念して、いろいろと活躍したようであるし、生徒一般の読書に対する興味も漸次高まっているように見受けられる。勿論、図書室の利用が未だ一部生徒に止まっている事は否めないし、蔵書の数や種類にも幾多問題は残されている。併し、何と云っても栄光の図書室をこれ迄に育て上げて呉れた図書部の部員諸君のたゆまざる努力はおおうべくもない。

由来、図書部とは陰の仕事であり縁の下の力持である。図書部員は、いつも黙々と図書の貸出や破本の修理をしているのである。"黙々と"――これは実際図書部員の日常を現わすに適わしい形容詞だと思う。彼等は真に、「黙々と」日陰の努力をつゞけている。然もその努力は決して楽なものではない。"いや楽でない所か、他の校友会各部の活動より、何層倍も辛い仕事なのである。

野球をやるのは確に面白い、新聞を作るのにも楽しみはある。然し、破本を修理し、書架を整理する事には何の楽しみが感じられようか?、図書部員の持つ唯一の楽しみと言えば、蔵書がふえ生徒の利用率が高くなる事だけなのである。此の僅かな楽しみの為に、部員は、毎日報いられざる仕事を励んでいる。然もその努力は、殆んど一般生徒の認める所とはならず、空しく陰の力に甘んじているのである。図書部こそは、我等に対する献身的奉仕の範たるものであると云えよう。

にもかゝわらず大部分の生徒の図書部を見る目は甚だ冷淡である。自ら進んで入部して、犠牲的精神を発揮する事はおろか、積極的意見を述べて、図書部をよりよく育てようとの心掛もない癖に、陰にまわって、腹の痛まぬ悪口を叩き、勝手な熱を吹いているのは、はたが見ても余りいゝ感じはしない。まして、貴重な時間を割いて迄、一心に図書室の充実を計っている図書部の諸君が、どんな気になるかは、こゝで改めて云う必要もあるまい。図書部員は、積極的、具体的な改善意見を望んでこそ居れ、決して揚足取りに類した悪口を期待してその職に励んでいるわけではないのである。

図書室は、図書部だけの図書室ではない。全生徒の図書室である。従って図書室の不備、欠点が一人図書部の責任たるに止らないのは当然のことである。図書室の改善は全生徒の義務である。そして又、全生徒の協力があって初めて、図書室の完成は成しとげられるのである。図書部員の労苦を見ては、我々が一通や二通の積極的意見を投書箱に入れる事などたかがしれている。然もその一通一通が我々の図書室をより完全なものへと導く一通なのである。

重ねて云う。"図書室は我々全生徒の図書室である。"――そして、その完成も、我々全生徒の協力なくしては決して成しとげ得ない。我々はより一層好意的にこの図書室の改善に努力し、たゆまざる努力を続けている図書部員への感謝の印とせねばならない。そして又、我々が図書室をよく利用すればする程図書部員の喜びも大きいと云う事も、忘れて了ってはならない事なのである。「読書の秋」は今まさに終らんとしている然し読書まで終らせて了ってはならない。

自ずから威厳漂う判事席
中三生国会・最高裁を見学

中三年生は、十一月十一日の早朝より、森本、当真、先生等に引率されて、国会議事堂、東京地方裁判所、および、最高裁判所、警視庁をたずね、社会科の実習を目的とする見学を行った。六時　駅を発ち、新橋駅をおりると日比谷公園に向った。宮城前の玉砂利を踏んで議事堂への道につく。議事堂の裏門を素通りして表門へまわると、ずらっと高級車が並んでいる。議員イカサマ諸氏のものとみた。そこを大手を振ってずらっと入り、他の学校を尻目に建物に入った。衆議院の本会議場の傍聴席へやってきたが休会中とあって傍聴は出来なかったが、案内人の説明をする人、イ・エ・チ・ツの発音がまるで逆、いうところの〇〇弁である。この部屋は、天皇の部屋に来た。この部屋は、戦災をうけた鳳凰の間にかたどったもので、入口は一本の大理石をくり抜いて作ったものである。そこここにガラスがはってあり、そこから中を覗くことになっている。壁には全部鳳凰の刺繍した布がはってあり、床は一枚のじゅうたんというすごいものだ。次に委員会室をおとずれ、案内人の暴力議会たる所以の言いわけを聞いて辞した。かくて「村長さん（森本先生）に連れられて地裁へまわる。こゝでは五班に分かれて実際に法廷に入り、裁判の模様をみた。日比谷にかえって昼食をおえるとなじみになった最高裁へ向うことになった。こゝでは父兄の一人である、青山、津田両判事がおられ、御厄介になることになっている。はじめに大法廷に入ったが、まず、聖徳太子の智、仁、勇を表わすという、三つの壁画が目につく、正面には田中長官をはじめ十五人の判事の席が一段高く設けられ、威厳が漂っている。アジビラの如きパンフレットを頂戴し、説明をきかされた。帰りの捨てゼリフ?、がいけません、「今度は被告になって来ます」。最後に津田さんに案内されたところが、警視庁である。こゝではウソ発見器がみられぬのが残念だったがラジオカーの機能を見せてもらい一応納得したというわけである。見学をおえて、四時再び東京駅から帰途についた。

栄光会々長就任挨拶

私は去る九月二十一日の栄光会役員会の推挙により名誉会長フォス校長先生より栄光会々則第五条に基き前会長渡辺雄二郎氏と交代して栄光会長を委嘱されました。身に余る光栄に存じております。栄光会父兄へは既に九月二十四日附校長先生より通知が寄せられましたが本紙を通じ改めて御挨拶申上げます。栄光会長の重職は私の様な者にとりましては聊か重荷と考えて居りますが校長先生始め職員及父兄の方々の御指導と御支援に信頼しまして及ばずながら本校発展の為に微力を尽したいと存じて居ります。何卒御協力を御願い申上げます。

学校の経営も校長先生の寝食を忘れた血の出る様な御努力と今迄の栄光会長、役員及会員の方々の積極的な御協力に依りまして施設内容共に堅実な歩みを続けて参りまして今日の隆盛を見るに至り今年度は一応全学年が充実し来年三月には第一回卒業生を送り出す迄に運びました事は皆様と共に誠に御同慶に堪えない次第であります。然し本校を真に良いものに致しますには尚施設や制度等に於て充実すべき点が残っていると存じますので今後校長先生の御指導の下に父兄と協力して逐次目的達成に邁進したいと存じて居ります。

私は平素よりフォス校長先生の立派な御人格に対し深い尊敬を払って居る者であり今回その下に会長として働く事を非常に光栄に存じて居ります。今後は校長先生の高邁なる御気持を体しつゝ当面する問題に対し善処して行きたいと存じて居りますので何卒皆様の盛り上る御支援御協力を御願いします。以上を以って簡単ながら私の就任の御挨拶といたします。

（　氏）

校長四十回目の誕生日を迎う

校長先生は去る十月十一日（土）第四十回目の誕生日を迎えられた。その朝、高等学校を代表して高三の　君、中学からは中三の　君が出て祝辞を述べ、合唱部からは「司祭の心」を合唱して御祝いした。それに答えて校長先生は先づ感謝の言葉を述べられそれから「誕生日と云うものは主に家庭内で祝うものです。本校で特に校長の誕生日を祝うのは学校全体が一つの家庭として先生、生徒が相互に協力して行く為であります。」と誕生日を祝う理由を語られた。

熱演涙をさそう
演劇部公演

演劇部秋季特別公演は、秋冷の十月十八日、期待のうちにひらかれた。開幕まえ既に待ちきれぬ観客達が多数会場を埋め、休憩時にはおゝよそ四百五十名に達する盛況だった。

劇は少年達のふとした探偵趣味をあつかった「お化け屋敷」に始まったが、興味の主体は主として下級生に集まったのに対し、休憩後は、同部の粋を致し、世間一般に知られている菊池寛原作の「父帰る」の熱演が上級生に非常に人気を呼び、なかには涙を浮べている者もあった。

今回の主演、賢二郎には中島康君、父には名倉忠昭君がついている。

〇

同じく第二回の公演は、次ぐ十一月十日、立太子礼を記念して無料入場で公開された。当日は、放課後すなわち記念式の直後一時から始まり、外題は、「だるま」「彦一ばなし」の二つで、前回に続いて観客を多数集めた。

寿司券の報告
栄光会会長

栄光会のお母様方に多大の御協力を御願い致しました去る十月十二日（日）、運動会当日のすし券売上は左の通りで御座います。

集まったお米　一石〇斗三升
すし券売上高（一〇一九枚分）　五〇、九五〇円
材料費其他諸費　一九、五四五円
差引残高　三一、四〇五円

右残金は校長先生と御相談の上、栄光会々計中に繰り入れました。本紙上を以って役員及び会員、特にお母様方の絶対なる御協力に対し厚く御礼申し上げます。

県書道展に全員入賞
特選に佐野君

去る十月二十五、六日横浜高等学校に於て行なわれた神奈川県教育委員会主催第一回神奈川県児童生徒書道展覧会に本学園から書道部員九名一般生徒が一名都合十名出品して審査の結果全員が入選、その内高二の　君が特選に、中二の　君が佳作に入賞して栄誉を克ち得た。

これに就いて書道部長渡辺先生は「今回は丁度運動会の準備と一緒になったので充分稽古も出来なかった為もあるがあまり思わしい成績ではなかった。尚此種の展覧会が年々増加して益々盛んになってくるが今後募集が出た際は諸君はふるって応募されたい。殊に一般生徒からの応募がもっと多くあってほしい。」と御感想を語られた。

校内トピックス

〇"歌おうじゃないか"発売

いよいよまとまった歌の本が出た。本書の内容は海浜キャンプに用いられたものと変りないが、装ていならびに紙面には、音楽科の酒井先生そして山根先生が監修され、且つ手を下されているといわれ値段は九十円だが高いといっては関係者に失礼に当るというが、概して発行は良いようだ。この本日本語に訳して"一緒に歌おうじゃないか"。

〇"柊"二號発行

運動会当日売りに出た校内同志の雑誌"柊"は目出たく二号を発行したが、新たに連載ものとして"乞食"が登場した他二三新人の寄稿が目立っている。

〇十月三十日　には中三のスペリングコンテストが行われその結果、一位はB組　君、二位はD組　君、三位はB組　君が夫々獲得した。又十一月七日には、中一のコンテストが開かれA組の　君、B組の　君、D組の　君が優勝した。

〇高一解Iに好成績

あぐ

去る十月三十日の、県高校数科研究会編による解析I・IIの試験の結果がわかった。今回の試験は各々時間五十分で、参加者は高II・I合せて二百十八名であったが、一般的に解析Iに於ては高Iが伸び、一方解IIは高II生だけで、結果はやゝ低位であった。（別表参照）

科目	解析 I	解析 I	解II
年	高1	高2	高2
人数	124	64	64
平均	72.4	65.7	51.9
最高	100	100	85
最低	30	30	5
備考	欠席高II−2名		

全国有名出版社発行
参考書豊富に陳列
島森書店
鎌倉駅前

創業三十年を誇る
絶対責任の皆様の店
修理部を特設してございます
羽田カバン専門店
横須賀市大瀧町三笠銀座
TEL 一八二八

10月12日

さかんな應援

第三回體育祭行わる

体育祭も栄光行事のめでたい慣例にもれず、三十分程遅れて開始された。国旗掲揚、会長挨拶を終って、いよいよ競技開始の運びとなったのが九時四十五分、最初の種目は例年の如く百米予選である。二つに分れて陣取った紅白の生徒席に、早くも猛烈な舌戦が展開される。

騒々しい応援が一段落つくと、シュトルテ先生がいきなり大音声を張上げて生徒を総立させ、病気の為に習得寺の家からこの運動会をながめて、髀肉の嘆をかこっている熊野先生の為に万歳を三唱、これに応えて席からは白いハンケチが振られる。

中二のボート・レース、中一のアンヨは上手、高校の騎馬戦とプログラムは進んで、そろそろ紅組がリードのきざしを見せ始める。

次が、今回より新に加えられた四キロ・ロード・レースのスタートである。「我こそは」と気負う駿足連にまじって、白鉢巻の東郷先生が颯爽優勝を目指される。一同はグランドを一周して順に路上へ――

いよいよ各先生がその技倆を競うスプーン・レースである。こゝ迄は、一が退けばすぐ次が現われて、至極円滑な入退場ぶりだったのが、ついにこゝで一頓挫、先生方は集り方も悪いし、行進の足並もなっちゃいないと召集係の生徒は不平タラダラだが、やはりこの種目に一番人気が集まると見えて、ヤジや声援がしきりである。スプーン・レースと云っても、先生方の不器用さを見越してか、本物のスプーンではなく、ラケットにボールを二つのせて走るだけだが、手附足附を見ていると仲々むずかしそう――傑作を拾うと、本尾先生がいつ迄たっても前へ進めぬのに業を煮やして、ついにラケットをかついでのゴール・インや、当真先生が悠々迫らざる足取で落着きはらったレースを見せたのなど……。

次の風船リレーは、元来余り面白くない上に、競技中にトラックにはロード・レースの選手が続々と帰って来て殆んど見る人もなかったのはお気の毒千万、然も、風船が割れてもかわりがないと云うので、しまいにはキック・レースに転向してしまうなど、散々の失態であった。

一方ロード・レースは、予想を完全に裏切って、三位迄を高一、いや高一B組が独占して了い、主任の森本先生は最高々、嬉しさを押え切れず、金十五円也の最高のリンゴを一位の荒井君に授けられた。これに反し、勇ましくスタートされた東郷先生は力走空しくついに番外になられた。

続く二種目、四百米と八百米は呆気無く終って、高三の先生探しが行われる。生徒が各自の拾った紙に名前の書いてある先生を引張り出してゴールインすると云う所だが、こゝに哀れを止めたのはウルフ先生――前後三回たてつゞけに狩出されてフラフラになり、折角一位を取った喜びも忘れて了ったとは全くお気の毒千万である。

高一、二の合同体操――いつもながら父兄一同の感嘆をかう。お待兼の昼食時、今を書入れと百方手を尽す各部売店をのぞいて見ると、物理部排球部のサイダー、化学部の煎餅を始め、栄光会のすし、手ぬぐい（栄光マーク入）の販売など、売行は上々だという話。

一時、午後の部開始、校旗を先頭に入場式に続いて中三の組立運動、重なり合ったり、倒れたり、はたの見る目も痛そうだが、腰を抜かす人も居ないのには感心させられる。

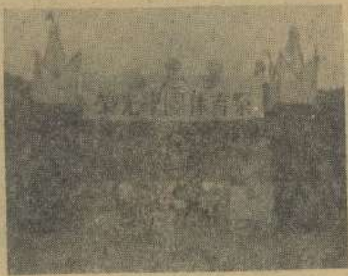
次は地区別リレー、五地区に分れて各学年生徒と父兄とが行うリレーである。続いて太公望、地面に置いてある紙の魚を釣針でひっかける競争だが、太公望の如く落着いた人は余り見当らず、皆せかせかとつり損って居た。

カチカチ山、サンドウィッチ競争と眠気を催すような種目の続いた後で、父兄と生徒の「箱と風」、父兄の方々の出足の悪いのにはホトホト閉口だと、係りの生徒もボヤいていた。

次に二種目騎馬戦があって、体操部の体操が行われた。一座？の立役者、黒野先生の居ないのは何と云っても淋しいが、部員一同大変張切って、観客の喝采を浴びた。

次いで借物競争、カンの悪さを如実に示すヤブ、ニラミなど、一同が腹の皮をよじった後、例の如くプロムネードに幕を閉じた。

紅白の得点は百四十対九十五で、紅組の勝ち、閉会式の終了したのは、日も西の山に沈みかける午後五時であった。



スポーツ

又も県大会に惜敗す

野球部

県高校野球連盟主催による秋季大会は、十一月一日より保土ケ谷球場で行なわれ、横須賀地区代表として本校も初出場し、横浜商業に対戦、接戦の末むなしく涙を呑んだ。

すなわち二日午後一時からの準々決勝第四試合では、前々日の雨でかなり軟弱なグラウンドにもかゝわらず本校ナインは元気にプレイした。試合は当初から全く互角で、最後迄予断を許さなかったが、けっきょく本校は試合かけひきの点で一歩譲ったために敗因を招く結果となった。

Y校 000020000 2
本校 000010000 1

	（本校）	打	安	四	打	失
7	[redacted]	4	2	0	0	0
2		4	0	0	0	0
3		4	1	0	1	1
5		4	0	0	0	0
8		3	0	0	0	0
2		2	0	2	0	0
1		4	1	0	0	0
9		2	0	0	0	0
9		2	0	0	0	0
6		2	1	1	0	0
	計	31	5	3	1	1

（Y校）[redacted]、[redacted] 安打6、失策〇、四球1、三振本校9Y校4、盗塁本校1、Y校2 二塁打、[redacted]、三塁打、[redacted]

三回を終えるも両軍相ゆずらなかったが四回に入るやY校は二安打一失に盗塁をおりまぜて巧妙に二点を先取した。しかしこの重盗の際、本塁を陥し入れんとした走者が、打者によって[redacted]捕手のタッチをさけ、生還するという複雑なプレイが演ぜられた。その後試合を通じてこの得点がいたくひゞき、結局本校は五回左翼越三塁打の[redacted]を[redacted]の中堅前適時打でかえした一点に止まったゝめそのまゝ押切られて退いた。

なお本大会の優勝校は、Y校であったが、再び優勝校と一戦を交えたことは、接戦につぐ接戦であったゞけに不運といえば不運だったが試合精神をたく磨し得た点では幸いであったろう。

【予選】

第一試合（二五日）
横商 ○○○○○○○○○ ○
本校 ○○○2○1○○A 3
（本校）[redacted]・[redacted]（二塁打）[redacted]・[redacted]（横）

第二試合（二七日）
三浦商 ○○○1○○○○○ 1
本校 ○○○1○○○3A 4
（本校沼沢[redacted]、[redacted]（三）[redacted]（本）[redacted]、[redacted]（二）

市民大会に準優勝

バレー部

十一月二日大津市営コートに於て挙行された第二五回横須賀市民体育大会バレーボールの部に出場堂々準優勝の栄をかち得た。

本校は市立工業高、市立横須賀商業高をなぎたおしBクラスの首位となつた。一方Aクラスの横須賀商高校が勝ち、本校との決勝戦に臨んだが熱戦の末、バレー部は健闘空しく2対0で敗れ、惜しくも優勝は横商の手にわたつた。

【第一試合】
栄光42（21―14、21―23）37市工

【第二試合】
栄光42（21―16、21―18）34市商

【決勝戦】
横高2（22―6、21―7）0栄光

秋の遠足

豚汁で騒ぐ新趣向

冷風快い行楽おわる

秋季遠足は、十月三十一日、カトリック祝祭日を十一月一日にひかえておこなわれたが、時に変わったための催、一日に鶴屋で囲かれた豚汁大会であった。前日迄の風雨も夜明けと共に去りまず快よい秋の行楽を楽しむことが出来た。

キャンプ場で豚汁を炊く（高三）

夏のキャンプ場に、今回は、校長、シュトルテ・エイレンボス、畑、当真、林先生等そうそうたるメンバーのもとに囲かれ、十一時より約五時間にわたった。

雲峰富士は白雲の冠（高二）

反射炉を望み、三島、沼津に至るも、赤く冬化粧濃い富士の姿は、伊豆の山を眼前に瞰下していた。久振りにエイレンボス先生が参加されたが、伊豆の山気は快よく冷たく、そして南洋に寄する干物においもいかにも秋を想わせるのであった。四時半始発の汽車で帰途につく。

驚いた客引きの旗また旗（高一）

こちらは用心棒に天狗様をいたゞき、非常事態にも困らぬ幸い途得た。熱海の町は新鋭の旅館が多く趣も並び賑雑であったが、伊東は木のせいか田園的な感じをうける。一行が峠を経て行く山々は未だ緑が濃い。川奈を過ぎて再び伊東に入るところには、すでに夕やみ濃く、ネオンの光もあざやかに駅前を行く旅館の客引きの旗が群をなしていた。

チョコレートを争う演劇會（中三）

三島を電車で修善寺に向い温泉町をぬけてバスを捨てた。途はすべったが、達磨山の峠迄は又すばらしい。今度の演劇会にはチョコレートが出る。一生懸命なのは生徒ばかりか、富士が笑っている。戸田を見な凱海の船で発ち、沼津を辞して帰途につく。

浪花節＋オペラ＋……÷5（中二）

運悪く小学生とかちあい朝から上は平穏無事だが下の方はまさに地獄という珍ラッシュを後に九時茂川を発ち、桜山で昼食をとる。余興の白眉は、吉田先生の美声と西沢君の浪花節＋オペラ＋童話＋劇＋落語÷5であったが、高草山に来てごみの多いのには驚いた。

三浦半島一周のバス旅行（中一）

ペルリ上陸記念碑に目礼して日鋳造業鋳鋼工場を見学したが冷凍室の寒さにふるえあがった。油壺で昼食を取り、早くもあげて来た潮にたやまされながらも無事に再びバスの人となる。三崎の魚市場をあとに長者ケ崎で小休し帰途についた。栄光晴れにならなくて本当に楽しかった。

新しい故郷「日本」

カナダの赤鬼から

七時ちょっと過ぎました。船の横にある階段はだんだんあがって来ます。船客は皆船の右側に最後のさようならのために集ります。私もスレーター先生といっしょにそこに立っています。下で六人の栄光の生徒が待っています。この六人の若い人が日本の代表者として「さようなら」と云った時、私は本当にさびしく思いました。この別れは自分の国からの別れよりもっとむずかしいです。その時新しい祖国を離す気持があったので、さびしいと云えませんでした。しかし、この動き出した船で本当の故里になった私の新しい国からどんどん離れるのはそんなにやさしいことではありません。「外国人でありながらどうして日本を故里と云うか」とどなたか考えるでしょう。故里と云うのは自分の心に一番近い、一番愛している所です。この愛の一つの理由はそこに生れたことかも知れません。しかし、それよりももっと深い、もっと強い理由も考えられます。使命を持って一つの国の本当の幸福のために一生を捧げて働こうと云う気持を持っている人にその国はいつとはなく故里になってしまいます。私はこの気持で日本へ来て三年間働いていましたのでこの大和の国はやはり一番なつかしい、そして一番愛している国になりました。正直に云えばハンガリーよりも気に入っています。ですから、今、日本からどんどん離れる時一つのことしか考えていません。「帰りはいつでしょうか。」この私を遠い外国へ持って行く船の名前もこれを意味しているらしいです。VENTURAはラテン語で「帰るでしょう」と云う意味です。この帰りはたぶん予想よりも早く来るだろうと云う考へは今、本当に大きな、そして一つの慰めです。ではこんど四、五年肉体的に別れても霊的に決して別れないつもりで。

さようなら
ネメシュ

對「藤高」初の勝利

蹴球部

十一月三日県下高校リーグ対藤沢高に初の勝利を収めた。試合は川崎高グランドで三時栄光キックオフ我軍はフォワードバックス一体となってよく敢闘遂に3―1のスコアーをもって宿敵藤沢高を破った。この日コンディションは絶好、前半十分は例の如くおされかきまわされて、栄光陣容がかなりくずれ、七分頃藤沢の大きなセンタリングがボール近くでバンドして一点を許した。その後次第にフォワード調子を増してよく攻めたが敵キーパーの好守とゴール前の不手際から得点ならず、我軍も両FBよく守って得点を許さず、押しつ押されつ前半終了。後半八分パス好調にいって[redacted]一点を返し十二分PKを得たが[redacted]失敗。このころよりフォワード、ハーフよくまとまり、すこぶる快調。十五分[redacted]キープよく右サイドより大きくまわして[redacted]シュートして1点リード。二十分[redacted]前バックスをなぎたおして独走更に1点を加えて何も優勢の内に試合終了。初の勝利をかち得た。

メンバー
F [redacted]
H [redacted]
B [redacted]

メンバー
LW LI CF RI RW LH CH RH LB RB GK [redacted]

	GK	FK	CK	PK
藤高	8	7	8	0
栄光	10	2	4	1

栄光3（0―1、3―0）1藤沢高

「父帰る」を観て

[redacted]

何となく物足りないーと感じた人は恐らく僕だけではあるまい。初めての臨時公演ではあるし、もう少し力を入れて貰いたかったと思う。あらをさがすと先ず「父帰る」で、クライマックスに持上げられなかった演技力の不足、うろ覚えの台詞、チグハグな動作など、恰好な悪口の対象となろう。殊に台詞を抜かしたり、間違えたりするのは、練習不足を自ら暴け出している様なもの――練習不足と云うと、聞えがいゝが、一皮むけば怠慢の代名詞である。いやしくも公演と名のつく限り、せめて台詞位は一人前に記憶して置くのが観客に対する礼儀というものである。先だっての学芸会の「息子」と比べると数段見劣りがしたのではなかろうか。たゞ道具立ての立派になつた点は確かに一面のプラスと云えよう。

一方、「お化屋敷」の方は先生が、一切手をかけず、演出から何から、凡て部員の手に依ったものだそうだが、まア上出来の方だと云える。勿論ギゴちなさは所々見受けられたが、一生懸命それをカバーしようとする努力が感じられたのは気持がいゝ。「父帰る」の御座也的空気とはいゝ対象である。結局「父帰る」の失敗がたゝって全体的に余り見応えがなかったとの感が強いか、これをもって従来の一般生徒の演劇部に対する認識――即ち、学芸会の日届一座的印象を見事に打破った点では、所期の効果を上げ得ている。どちらに重点を置いてこの公演を見るべきか、難しい問題だが、とに角、臨時公演が出来る様になったと云うのは一つの大きな進歩である。それを考慮に入れるなら矢張りこの公演は失敗ではなく成功だったと云わねばなるまい。

模型と教材なら
吉田模型店
横須賀市大瀧一ノ二四
電話一八八

和菓子 ケーキ
洋菓子 その他豊富
船越
松月堂
電六五五（田浦）

時計とメガネの御用命は
栗城時計店
船越仲見世通

SSチェーン薬局
澁谷薬局
電（田浦）四三

元祖 逗子饅頭
知事賞 千鳥饅頭
長島屋菓子店
逗子町本通り

医薬品
化粧薬品
工業薬品
開成堂
石渡薬局
電二一一三（逗子）